

## 4. 新聞等に掲載された研究

### 細菌学講座 (Bacteriology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
宮本 勉 教 授	プリオン病の病因とプリオン蛋白	NHK長崎放送 テレビ長崎 長崎文化放送 T B S	H 8. 4. 11 H 8. 4. 12 H 8. 4. 12 H 8. 4. 14	プリオン遺伝子欠損マウスに生じた運動失調に関する解説 プリオン病(クロイツフェルト・ヤコブ病、牛海綿状脳症等)に関する一般的知見の解説
宮本 勉 教 授	狂牛病原因物質 運動失調に影響	読 売 新 聞	H 8. 4. 11	同上
宮本 勉 教 授	狂牛病 正常たんぱく質 消失で発症?	朝 日 新 聞	H 8. 4. 11	同上
片 峰 茂 助 教 授	「狂牛病」解明に手がかり 正常なら細胞生存に一役	長 崎 新 聞	H 8. 4. 11	同上
宮本 勉 教 授				
宮本 勉 教 授	狂牛病の手がかりプリオン 体内での働き解明	西日本新聞	H 8. 4. 12	同上
片 峰 茂 助 教 授	老化に伴う運動障害確認 プリオン欠いた実験マウス 使い	毎 日 新 聞	H 8. 4. 14	同上
宮本 勉 教 授	緊急セミナー「プリオン 病と狂牛病の関わりにつ いて」を開催〈感染症学 会〉	日経バイオテック	H 8. 4. 22	同上
宮本 勉 教 授	狂牛病とヤコブ病見えぬ 関連 消せぬ疑い	日本経済新聞	H 8. 4. 26	同上
宮本 勉 教 授	発病後は確実に死亡する 新種日本上陸の可能性は	週 刊 宝 石 16 卷 19 号	H 8. 5. 23	同上
宮本 勉 教 授	緊急セミナー「プリオン 病—狂牛病とのかかわり をめぐって」PrP の変化 により発症	Medical Tribune	H 8. 5. 23	同上

### 衛生学講座 (Preventive Medicine & Health Promotion)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
横尾美智代 教務職員	噴火災害被災校児童の噴 火の受けとめ方	NBC長崎放送	1996. 9. 25	雲仙普賢岳の噴火災害で被災した小学生を対象に、噴火災害に対する認識を、児童の作品から調査した。

## 公衆衛生学講座 (Public Health)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
永田 耕 司	これまでの市町村保健婦活動の評価とその未来について		'96年5月	市町村保健婦のあゆみ

## 原爆後障害医療研究施設放射線障害解析部門 病態分子解析研究分野

(Atomic Bomb Disease Institute Radiation Effect Research Unit, Department of Molecular Pathology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東 正 博 助 教 授	チェルノブイリ小児甲状腺癌	長崎新聞	'96. 2. 11	チェルノブイリ小児甲状腺癌国際シンポジウム
〃	チェルノブイリ医療協力プロジェクト	長崎新聞	'96. 4. 21	チェルノブイリ国際医療協力に関する座談会
〃	チェルノブイリ医療協力プロジェクト	長崎新聞	'96. 4. 30	ロシア語教科書出版
〃	チェルノブイリ医療協力プロジェクト	朝日新聞	'96. 5. 1	ロシア語教科書出版

原爆後障害医療研究施設分子医療部門 分子診断研究分野

(Atomic Bomb Disease Institute Molecular Medicine Unit, Department of Nature Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下俊一 教授	小児甲状腺がんのテーマ	長崎新聞	1996. 2. 11	長崎からのチェルノブイリ医療協力
山下俊一 教授	コバルト被爆問題調査依頼	長崎新聞	1996. 2. 14	台湾での放射線被爆問題への協力
山下俊一 教授	甲状腺がん国際シンポジウム-長崎	長崎新聞	1996. 2. 21	旧ソ連邦の科学者との会議
山下俊一 教授	成人病予防と健康づくり	長崎新聞	1996. 3. 3	健康づくりのノウハウ紹介
山下俊一 教授	放射能Q&Aチェルノブイリ原発事故から10年	朝日新聞	1996. 3. 5	チェルノブイリ国際医療協力
山下俊一 教授	日本の国際貢献今こそ	毎日新聞	1996. 4. 16	日本からの国際医療協力の提案
山下俊一 教授	報道スペシャル-座談会 チェルノブイリ原発事故から10年	長崎新聞	1996. 4. 21	チェルノブイリ国際医療協力
山下俊一 教授	ロシア語の教科書出版	朝日新聞	1996. 5. 3	チェルノブイリ国際医療協力
山下俊一 教授	放射能Q&A ロシア語訳	朝日新聞	1996. 5. 21	チェルノブイリ国際医療協力
山下俊一 教授	長大原研公開セミナー	長崎新聞	1996. 8. 11	放射線全般の知識啓蒙事業
山下俊一 教授	高齢協医療と福祉問題	長崎新聞	1996. 8. 23	豊かな高齢者の生き方
山下俊一 教授	カザフスタン核実験関係	長崎新聞	1996. 9. 27	原爆平和利用目的の実例紹介
山下俊一 教授	シーボルト医学シンポジウム	長崎新聞	1996. 9. 28	シーボルト生誕200周年記念講演会

## 内科学第一講座 (Internal Medicine)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
長 瀧 重 信 教 授	陛下に原発問題で説明	読 売 新 聞	'96. 1. 5	旧ソ連チェルノブイリ原発事故の現状説明のため、12月22日、皇居で、事故の人体的影響などについて約1時間にわたって両陛下に御説明した。
長 瀧 重 信 教 授	9月に国際医学シンポ	長 崎 新 聞	'96. 2. 14	シーボルト生誕200年を記念して、長崎大学やシーボルトの母校、ドイツ・ビュルツブルク大学などゆかりの4大学関係者が、長崎市で「国際医学シンポジウム」を開催する。長大医学部はシンポ組織委員会(委員長：長瀧重信医学部長)をつくり準備を進めている。
長 瀧 重 信 教 授	甲状腺がんで国際シンポ	長 崎 新 聞	'96. 2. 21	チェルノブイリ事故に関係した小児甲状腺がんは日本、英国の被曝と関係ない小児甲状腺がんと比較して悪性度が高いことが報告された。
長 瀧 重 信 教 授	ベラルーシの子ども甲状腺がん 悪性6割	日本経済新聞 福 井 新 聞	'96. 3. 23 '96. 3. 25	ベラルーシの甲状腺がんが日本より悪性の例が多いことをミンスクで始まった事故影響に関する国際会議で発表する。
長 瀧 重 信 教 授	長崎大医学部とベラルーシの医大；被爆者治療へ共同研究	読 売 新 聞	'96. 4. 3	長崎大医学部(長瀧重信学部長)はベラルーシのミンスク医科大と姉妹校提携を6月に結ぶことを明らかにした。10年目を迎えるチェルノブイリ事故後、急増した小児甲状腺がんの原因究明に向けた共同研究に取り組む予定。
長 瀧 重 信 教 授	チェルノブイリ事故10年	朝 日 新 聞	'96. 4. 12	国際機関による大がかりな調査は今年を区切りに停止や縮小に向かうが、影響が長期に及ぶ放射線被害の調査を10年で幕を引くのは早すぎる。長瀧教授は、「いま日本が支えれば国際研究は続け、その主要な役割を担うことができる」と述べた。
長 瀧 重 信 教 授	子供の甲状腺がん数年で100倍増加	長 崎 新 聞 山 梨 日 日 新 聞	'96. 4. 21 '96. 5. 13	チェルノブイリ事故10年に当たり、WHO、EU、IAEAの3つの国際会議に招待講演者として参加した。その3つの会議の報告及び今後の課題について述べた。

長瀧重信 教授	座談会；チェルノブイリ 事故から10年	長崎新聞	'96. 4. 21	チェルノブイリ事故後、現地で検 診や技術指導を行っている長大医 学部、放影研の専門家6名（長瀧 教授、芦澤医師他）が現地での体 験や今後の課題などについて語っ た。
河部庸次郎 助手	角尾学術賞受賞	長崎新聞	'96. 4. 25	「免疫学的寛容機構の解明と慢性 関節リウマチにおけるその機構異 常について」というテーマに基づ いた研究が顕著な学術的貢献をし たとして高く評価された。
長瀧重信 教授	平和推進協会理事長に長 瀧・長崎大医学部長	毎日新聞 読売新聞 長崎新聞 朝日新聞 西日本新聞	'96. 5. 28 '96. 5. 28 '96. 5. 28 '96. 5. 28 '96. 5. 29	官民一体で平和推進活動に取り組 む(財)長崎平和推進協会の新しい理 事長に長瀧重信・長崎大医学部長 が就任した。
長瀧重信 教授	市民の訴え 世界へ発信	長崎新聞	'96. 5. 30	長崎平和推進協会新理事長に就任 した長瀧教授は、今後の活動活性 化について、「被爆地の医療データ が世界で信頼されるのと同じで、 長崎市民の訴えは世界の人々の共 感を呼ぶはず」と述べた。
長瀧重信 教授	長大医学部とミンスク医 科大姉妹校協定締結	毎日新聞 読売新聞 朝日新聞 西日本新聞 長崎新聞	'96. 5. 30 '96. 5. 30 '96. 5. 30 '96. 5. 30 '96. 5. 30	チェルノブイリ原発事故の被爆者 への影響などを共同研究するため 姉妹校締結をした長大医学部（長 瀧重信学部長）とミンスク医科大 （クバルコ学長）の学術協力・交 流協定締結調印式が長大医学部の ポンペ会館で行われた。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ事故後、 小児の甲状腺がんが急増	読売新聞	'96. 6. 26	3ヶ国の事故当時0才から10才ま での子供約8万7千人を調査した 結果、36人ががんの発症が確認さ れた。「チェルノブイリの症例を調 査し、発症原因が解明できれば、 がんの発症予防にもつながる。国 を越えて研究が必要」と述べた。
江口勝美 助教授	三浦記念リウマチ学術研 究賞受賞	日本リウマチ 財団ニュース	'96夏号	「慢性関節リウマチにおけるアポ トーシスの意義の解明とその制御 における治療の試み」というテー マに基づいた研究が評価され、平 成8年度三浦記念リウマチ学術研 究賞を受賞した。
長瀧重信 教授	(財)長崎平和推進協会理事 長に就任	毎日新聞	'96. 8. 9	「核廃絶には息の長い運動が必要。 次の50年を目指し、世界の被ばく 者と連帯し、被爆体験の継承運動 を進めていきたい」と述べた。

赤澤 昭一 講師	不規則生活者の糖尿病治療	Diabetes in the News	'96. 8. 15	不規則生活者の血糖コントロールに関する生活改善の提案
赤澤 昭一 講師	糖尿病—放置すれば合併症に—	長崎新聞	'96. 8. 20	糖尿病は放置すれば三大合併症を生じるので、定期的外来の受診、糖尿病協会への加入の重要性を説明した。
長瀧 重信 教授	チェルノブイリ関連諸国医師団の研修終了式	西日本新聞 長崎新聞	'96. 9. 6 '96. 9. 6	「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会」の招きで約1ヶ月長崎大医学部などで研修を受けた医師5名の研修終了式が行われ、長瀧学部長より修了証が手渡された。
長瀧 重信 教授	米国メイヨー財団から「サムエル・ヘインズ賞」を受賞	読売新聞 朝日新聞 長崎新聞	'96. 9. 7 '96. 9. 8 '96. 9. 14	長瀧教授が米国のメイヨー財団が甲状腺の分野で顕著な功績を残した研究者に送る「サムエル・ヘインズ賞」をアジアで初めて受賞した。チェルノブイリ事故での被ばく医療の研究などが評価された。
長瀧 重信 教授	国際医学シンポ開催	長崎新聞	'96. 9. 22	シーボルト生誕二百年を記念する「国際医学シンポジウム」(シンポ組織委員長・長瀧重信医学部長)が長大医学部などで開催。海外の研究者約25人が参加し、長大医学部の関係者らと最新の研究成果を報告し合い、交流を深める。

精神神経学講座 (Neuropsychiatry)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
中根 允文 教授	チェルノブイリ原発事故 胎内被爆児	長崎新聞	1996. 10. 16	精神神経科学講座が継続的に行っている原爆被爆者等の精神保健などに関する疫学研究を研修するために来崎したウクライナの精神科医の紹介記事である。

整形外科学講座 (Orthopaedic Surgery)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊藤 信之 助教授	整形外科について	長崎新聞	10月3日	整形外科の診療について

皮膚科学講座 (Dermatology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山 一朗	蕁麻疹	アレルギー 談話室	96/10/27	日常ありふれた皮膚疾患である蕁麻疹は、患者のQOLから見た場合その原因究明、病態の把握は重要であり、また薬剤、食物、化学物質が原因となる蕁麻疹についてもその社会的な啓蒙が必要である。
鵜殿 雅子	皮膚癌の治療と予防	報道センター N B C	96/11/29	長崎大学皮膚科で皮膚癌患者が増加していることを報告した。皮膚癌の原因の一つは紫外線である。紫外線によるDNA損傷の事実を示し、日焼けを防ぐことで皮膚癌を予防できることを啓蒙した。

麻酔学講座 (Anesthesiology)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
澄川 耕二 教授	バランス麻酔	テレビ東京	1996年 2月4日	バランス麻酔のコンセプトは、複数麻酔薬を併用することにより、単独薬物大量投与による不利益を克服することである。 手術侵襲から生体を防御するための効果的なバランス麻酔について解説した。

脳神経外科学講座 (Neurosurgery)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴田 尚武 教授	メスを使わないがん治療	NBCテレビ 「報道センターNBC」	'96. 1. 18	脳疾患に対する高度先進医療の普及
柴田 尚武 教授	ライナック・ラジオサー ジェリー	NHKテレビ 「NHKイブ ニングネット ワーク」	'96. 4. 12	同上

心臓血管外科学講座 (Cardiovascular Surgery)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
釘宮 敏定 教授 高木 正剛 助教授	人工弁の進歩	NBCテレビ	'96. 3. 22	心臓弁膜症の治療法としての人工弁置換手術の進歩について解説し、とくに長崎大学病院での良好な手術成績を紹介した。

## 腎疾患治療部 (Renal Care Unit)

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
原 田 孝 司	慢性糸球体腎炎IgA腎症	メディカル朝 日 7 : 88-89	1996	IgA 腎症の発展・進展 腎炎の管理・進展防止